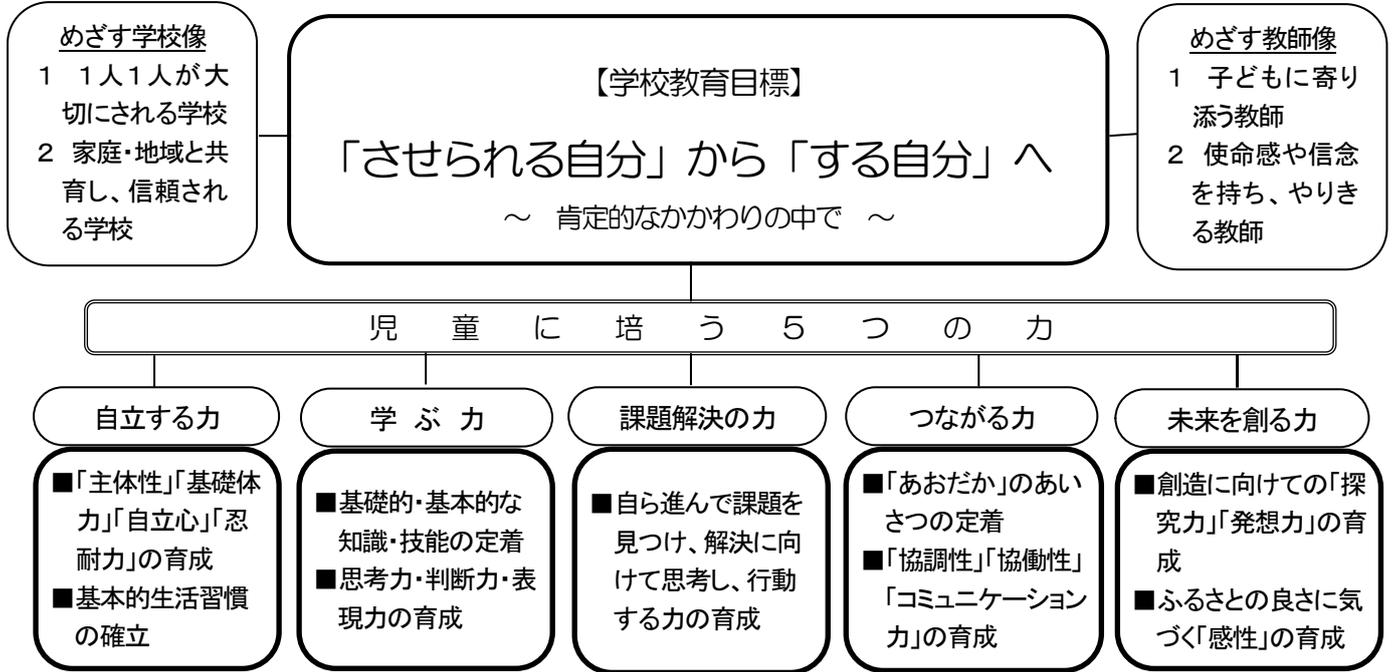


豊岡南北中学校区で育てる子どもの姿

夢や目標に向かい、自分とふるさとの未来を切り拓く子

- ◆自ら考え行動する子 ◆心と体を鍛え、最後までやりぬく子 ◆ふるさとを誇りに思い、ふるさとを語れる



指導の柱 実践のキーワード：「聴く」「つなぐ」「ほめる」

「する自分」を創り出す教育とは、児童の学習意欲、生活意欲を対象とした教育活動である。そのためには、「意思」を鍛え、児童が備える「欲求」を刺激することが重要となる。子どもたちが、なりたい自分をめざし、真の「学びの主人公」となるためには、本校の全ての教育活動の基盤に、子どもの声を「聴く」、子ども同士を「つなぐ」、子どもを「ほめる」をキーワードとした「肯定的な関わり」を据え、全職員で支持的風土のある学級・学年・学校づくりを進めていく。

経営の重点

	重点課題	本年度の努力目標	具体的な取組内容
教育課程	自ら学び、自ら考える力の育成	5つの徹底・継続実践事項の実践を柱に、主体的・対話的で深い学びの実践に努める。	■授業において、子ども同士の学び合いの場面（思考の場面、話し合いの場面、説明する場面）を充実させる。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の推進	どの子ども達成感・成就感が味わえる授業づくりを実践する。	■児童のつまずきに対応した個別指導をこまめに行う。（つまずきを先送りしない。） ■特別支援教育の視点を取り入れた支援を授業に取り入れる。
	道徳教育の充実	肯定的な関わり合いの中で、思いやりに満ちた人間関係を築く。	■道徳の教科化に向けての準備・研究を行う。 ■授業参観やオープンスクールなどの機会を捉え、道徳の授業を公開する。
	特別活動の充実	集団活動を通して、自分の役割に責任ある行動がとれる子を育てる。	■異年齢が触れ合う縦割り班活動を充実させる。 ■自分たちの学校生活をよりよくするため、児童集会を行う。
	総合的な学習の時間の充実	体験的・探求的な活動により、課題追究力、コミュニケーション力、自己表現力を培う。	■豊岡こうのとりのプランにおける「ローカル&グローバル学習」の実践を定着させる。（やり切る）
	読書活動の推進	読書環境を整え、家庭と連携しながら読書活動の習慣化を図る。	■毎月最終金曜日を「読書記録の日」に設定し、読書記録を付けさせ、読書の習慣化を図る。

	外国語活動の推進	英語を主にして、積極的に人と関わるコミュニケーション力を培う。	■ALTによるネイティブな英語を積極的に活用しながら、各担任による「英語遊び」「外国語活動」を全学年で実践し、児童の英語力を高める。
学 校 運 営	開かれた学校づくり	家庭・地域との情報の共有化と地域の教育力の積極的な活用を図る。	■情報共有のため、オープンスクール、参観日等で教育活動を公開し、特色ある取組を発信する。
	生徒指導の推進	・基本的な生活習慣の定着を図る ・他を思いやり、支え合う人間関係を培う。	■3つの年間重点目標の徹底を図る。 ①笑顔で「あ・お・だ・か」のあいさつを進んでしよう ②「こ・す・め」 ③「さ・し・す・せ・そ」そうじ ■肯定的な関わりの徹底。(ふわふわ言葉)
	危機管理体制の整備	危機管理意識の高揚を図り、迅速で適切な対応に努める。	■教職員の危機対応能力向上を重点に置いた防災訓練を実施する。(関係機関からの指導を受ける。)
	連携教育の推進	子どもの発育と学習の系統性・連続性を重視した学習指導、生活指導を推進する。	■授業を柱に、不登校対策・UD化を繋いでいく。 ■幼・小・中の「引き継ぎ連携システム」の機能を十分発揮させる。
	職員研修の推進	児童の今日的課題を基にした授業改善への取組を推進する。	■「授業づくり」と「学級づくり」の一体化を念頭に置き、研修内容の日常化を図る。
	いじめや不登校の問題に関する対応	・いじめの未然防止と積極的認知に努める。 ・不登校の予防と支援に努める。	■子どもに寄り添い、子どもの声を聴く。 ・日常の対話 ・アンケート ・個人面談 ■ケース会議、いじめ対応チームなど、組織による早期発見、早期対応に努める。
課 題 教 育	人権教育の推進	肯定的な関わりの中で、人権意識と自尊感情の高揚に努める。	■児童に役割を持たせ、体験的に自己有用感や達成感を感じられる活動を実践する。
	特別支援教育の推進	児童のアセスメントに基づく支援の充実を図る。	■特別な支援を必要とする児童の実態把握に努め、指導・支援内容の協議及び見直し等により、きめ細かく適切な教育的支援を行う。
	安全・防災教育の推進	実践的な知識やスキルのアップを図り、主体的な判断力・行動力を培う	■シミュレーションを通し、職員が状況判断力を高め、防災設備の使用法について熟知する。 ■実効性のある避難訓練を実施する。
	環境教育の推進	地域での体験活動を重視し、学習と実践の一体化を図る学習活動を推進する	■地域の人材や施設の活用し、ふるさとの自然・風土をいかした学習資料を取り上げた実践を行う。
	食育の推進	正しい食知識や望ましい食習慣を身に付け、食への感謝の心を育てる	■給食センターと連携した「食の授業」の継続。 ■「食育」のねらいを明確にした授業の実践。
	体験活動の推進	体験からの「学び」を明確にしながら、協調性、自立心を育てる	■実生活や実社会の中での体験活動を授業に取り入れ、体験からの学びを必ず振り返らせる。
	健康教育の推進	主体的に健康で安全な生活が送れるよう、健康管理ができる能力・態度・習慣を育てる	■「眠育」の視点から生活習慣の改善とよりよい生活リズムの定着を図る。
	体力づくりの推進 (運動遊びの推進)	運動習慣の定着と児童の課題を基にして、体力の向上と安定した心の育成を図る	■運動の基礎となる調整力の育成を図る。 ・「豊岡市版小学校体育準備運動」や「運動タイム」を積極的に活用する。
	ふるさと教育の推進	ふるさとの「ひと・もの・こと」に学び、ふるさと豊岡を誇る心の育成に努める。	■豊岡こうのとりプランにおける「こうのとり」「豊岡の文化・産業」「山陰海岸ジオパーク」の学習の実践を行う。
キャリア教育	夢や希望を持って、自己実現のために努力する子を育成する。	■キャリアノートの積極的活用を図り、児童に成長を実感させる。	

本年度の3つの最重点的取組

1 肯定的な関わりを通して、子どもを育てる

- (1) 子どもに寄り添い、子どもの声を聴く。
- (2) 特別支援教育の視点を教育活動の根底に置き、児童のアセスメントに基づく支援の充実を図る。

2 授業で子どもを育てる

- (1) 「授業における5つの『徹底・継続』実践事項」の実践を柱に、「主体的・対話的で深い学び」の実践に努める。
- (2) 児童のつまずきに対応した個別指導をこまめに行う。(つまずきを先送りしない。)

3 小中一貫教育を推進する

- (1) 「ローカル&グローバル」学習の実践を進める。(ふるさと教育、コミュニケーション教育、英語教育)
- (2) 南北中学校区での学習指導と生活指導の連携を強化する。